事例No.	2726
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	結いの里・椋川

事例区分	地域活性化

タグ	・公共施設活用 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

結いの里・椋川

出典

令和２年度ふるさとづくり大賞事例集

団体表彰

結いの里・椋川

滋賀県高島市

観光振興・交流　コミュニティ

概　要

山里に20世帯ほどが暮らす高島市今津町椋川区。平成20年、築144年になる茅葺古民家を守ろうと住民と地区外の協力者がグループを結成。高島市に働きかけ、古民家は高島市都市農村交流施設「おっきん椋川交流館」として整備され、当グループが管理運営し、山里の暮らし体験を提供。収穫祭「おっきん！椋川」では、各家が農産物や工芸品などを販売。市内外の来訪者と交流している。約70名のメンバーが知恵を出し合い、毎年1000人を集客。暮らしの知恵と技の伝承と山里の風景を次代につなぐ活動をしている。



【収穫祭「おっきん！椋川」】

評価された点

・平成16年から始まり、平成20年から本格化。地域活動からひろがる。ふるさとづくりの典型例。
・【継続性】2008年設立。【独自性】補助金頼らず。【連携生】移住者、地域外市民、市民グループ、専門家、教育機関。【先進性】域外の応援者を呼び込み地域資源を守り次世代へ継続。【効果】地域住民意識の変化。【発展性】多様な団体との連携。
・地区住民がふるさとに誇りを持てるようになる中で交流人口が増えている。さらに、この事業を移住者や地区外の会員にも広めていく模索があるなど、今後の地域づくりの参考になることがある。



【高島市都市農村交流施設おっきん椋川交流館】



【暮らし体験イベント（わら細工）】